



地域がはぐくんだ、ふれあいのつながりを訪ねて

愛ランドまーい

人と人のつながりがより身近な地域には、途切れることのない人の輪があり、脈々と継がれる絆があります。共同体意識に根ざした独特の活動を展開する各字を訪ねました。

子どもを非行から守る 婦人会の取り組み

昭和三十六年、沖縄の社会がベトナム戦争の影響を受け始めた頃のこと、宜野座村の米軍用地では、軍事演習がさかんに行なわれました。大人に交じって中学生が学校を休んで演習地の山に入り、葉ぎよう拾いをして小遣いかせぎをするようになり、やがてその山で野宿した字惣慶の生徒が山火事をおこす事態に。その問題をきっかけに、惣慶区民は非行から子どもを守ろうと立ち上がりました。子どもたちをどのように守っていくか、取り組みについて話し合いの中心となったのは若いお母さんたちが活動する婦人会でした。そのお母さんたちを熱心に指導したのは、地元の小学校校長と一人の中学校教師でした。さらに、当時字には教職員住宅や民家に十七名の教師が居住しており、地元の教師たち



夏休みの42日間、班の交代制で夜間夜7時に出発。浜辺、校庭、コンビニパトロールへ毎日などを巡視する。

と惣慶の浜辺に集まり、教育環境の整備について議論を重ねたといえます。こうして、これら教師たちがサポート役となり、婦人会長が会長となり、惣慶教育隣組は誕生しました。まず、手がけたのは、字の育英資金を活用し、勉強机と椅子、小黒板、鉛筆削りなどを児童生徒のいる世帯に買い揃えたり。さらに蛍光灯を配布し、電気料金を無料としたのは、他にみられないことでした。現在も続いている夜間防犯パトロールは、当



夏休み夜間パトロールと、 子どもの環境づくり45年

宜野座村字惣慶の教育隣組活動

昭和36年、ベニヤ板に赤土を塗りつけて黒板をつくった教育隣組「あけぼの会」

初より班の交代制で実施され、児童生徒がたむろする山や浜辺、御嶽(ウタキ)周辺など、区内の要所を巡視しています。当時の児童生徒も、今は子を持つ親世代となり、パトロールに参加しながら「子どもがいる家庭も、いない家庭も区民全体で取り組むのが惣慶の教育隣組です」と語るそのことばに、かつて、非行から子どもを守るために立ち上がった区民の志が四十五年を経た今日も変わらず生きています。

シンボルは、 ガラマン岳と協力心

沖縄本島のほぼ中央部、国道三百二十九号線から東の海岸沿いに広がる平たんな地。惣慶は、北にシンボルのガラマン岳(惣慶山)をひかえ、南の水平線上に平安座や宮城の島々を望む風光明媚な位置にあります。集落の真ん中に、およそ五百八十年前、今帰仁按司の三男が村を開いたとされる御嶽があり、区民はその聖地を「お宮」と呼び、心のより所として崇めています。人々は村に対する協力の強い気風で、教育

隣組や字行政農業を発展させてきました。地域で子どもを育てる「惣慶区学習会」の取り組みは、近隣市長村から参考にと参観者が訪れるほどで、去年は全国的な賞を受賞しました。現在、人口は千百人余。各団体の活動もさかんで、夏には旧暦六月の綱引きやエイサーなどで盛り上がります。



旧暦6月のエイサー



水と緑と太陽の里、「てんぷす・宜野座」

沖縄本島のちょうど真ん中、てんぷす(その位置にある宜野座村は、山間部の丘陵から、太平洋に面した海岸地域まで、地の利を生かした元気な村づくりが進んでいます。

五つの水ガメ
農業用ダムから地元用、そして県民の水ガメまで村の南北を走る山々に5つのダムが造られています。



健康増進施設や漁業振興
国内最大規模の海洋療法施設「かなたらソ沖縄」も好評。村内の漁港整備が進み、パヤオ漁やウニ、もずくなどの種苗の生産、放流、育成などの資源維持培養型漁業が展開されています。



じゃがいも・マンゴー・花キ栽培
国の産地指定を受けた特産「赤土じゃがいも」をはじめ、南向きのなだらかな丘陵で、太陽をいっぱい浴びたさまざまな作物が実ります。

宜野座村概要
那覇から車で北上すること、およそ90分。県道329号線沿い、恩納村との境をなす山々を北に、広々とした平野の地形。農畜産業や生活基盤の整備が進み、データセンターやコールセンターを有するIT施設「サーバーファーム」やプロ野球人気球団、阪神タイガースのキャンプ地としても注目されています。